

# 笠のそばかさ



笠への山道

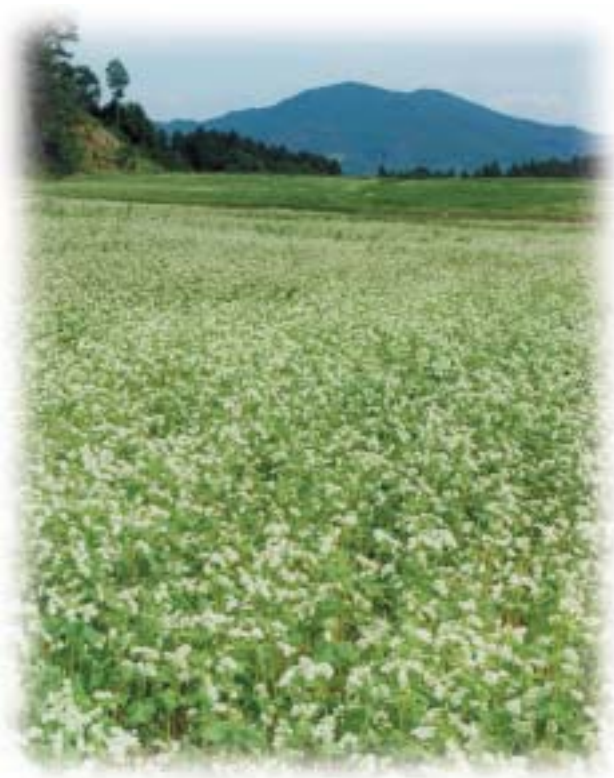
「昔は狭い段々畑ばかりで、山あいなので日当たりの悪い田畑もあり、農業にはとても苦労した。」  
そう笠の人たちは話す。そんな笠地区に、今から三十年ほど前、大規模な農地開発が行われた。段々畑や小さな田も大きく整地され、機械が使えるようになり、農作業はずいぶん楽になった。しかし、新たな農地はとも広く、少ない人手で作物を作っていくのは大変だった。しかし、せつかくの畑を荒らしてしまうわけにはいかない。そこで考え出されたのが、そばの栽

「ここは、奈良県桜井市笠。三輪そうめん  
で有名な桜井市の市街地から、つづら

折れの山道を  
車で十五分ほ

ど行った山間にある地区である。

「とても広い畑ができたなあ。さあ、どうやってこの畑を使っていこうか。そんなに人手も多くないしね。」  
「せつかくでできた畑も、しつかりと使っていかなければすぐ荒れてしまうぞ。」  
「……。」  
「そばを植えてみればどうだろうか。」



笠のそば畑



店のメニューの一つ「荒神そば」



乾めん「笠のそば荒神の里」

培<sup>ばい</sup>だった。

「そばなら、あまり手間をかけずに育てられるし、機械で収穫<sup>しゅうかく</sup>できるから人手もあまりいらさない。今の農作業の合間に何とかできるんじゃないかなあ。」

こうしてできたそばの実を、粉にしてめんを打った。そして、笠の人たちみんなで試食してみたのである。

「うまい。」

思いもかけないほど、とてもおいしいそばだった。関東のそばの専門家からもその品質は非常に素晴らしいものだ<sup>たいこばん</sup>と太鼓判<sup>たいこばん</sup>をもらった。

「どうだろう。地区のみんなで協力して、このそばを笠の名物にできないだろうか。そうすれば、多くの人が笠を知ってくれるし、きっと若いあいつぎの人たちも育つだろう。」

地区の人々や県・市の役所、農協（JA）、地元の製粉会社などの人々が集まって「笠そば栽培<sup>そくしん</sup>促進協議会」が結成され、地区で収穫されたそばで乾めん「笠のそば 荒神<sup>こうじん</sup>の里」をつくり、販売<sup>はんばい</sup>が始まった。しかし、当初は人々に知られていなかったこともあり、なかなか売れなかった。何とか販売を進めたいと考えた笠の人たちは、全国の有名なそばどころを回り、学ぶことにした。さまざまなところを訪問し、その地のそばを味わってみてあらためて感じたことがあった。それは、『やっぱり、われわれの郷土、笠のそばはうまい』という自信だった。そしてそのことを証明するように、少しずつそのおいしさが人々の口から口へと伝えられ、「笠のそば」を買い求める人が増えだした。

「われわれのそばのおいしさがみんなに分かってもらえるようになってきたが、乾めんよりもっと風味のよい生そばを手軽に味わってもらいたくない。いい方法はないものだろうか。」

「そうだね。やっぱりそばは、『ひきたて、打ちたて、ゆでたて』が最高

だからね。」

「よし、みんなでそばの店を出そう。」

そばの販売を始めてから半年、笠の人たちは力を合わせて、そばの店「笠そば処<sup>どころ</sup> 荒神の里」をつくった。働き手の中心は笠の女性たち。笠地区のほぼ全戸から五十人が参加した。

しかし、何と言ってもそばの店を出すのは初めて。不慣れなため、初めはずいぶん苦労した。食べてもらったお客さんにアンケートをとり、だしなどの味の改良にも取り組んだ。

そんな努力のかいあって、店は今では一日で五百食を売るほどにぎわうようになった。そのおいしさに、バスも通っていない山の中のプレハブ建ての小さな店にもかかわらず、遠く大阪などからも食べに来る常連の人がいるほどである。

「いらっしやい。」

元気のよい声にむかえられて店に入ると、満席の店内にそばの香りが立ちこめている。カウンターの向こうには、生き生きと働く笠の人たちの姿。

「いっしょに働いて、前より笠の人たち同士がなかよくなつたわ。」

「遠くから笠に来てくれる人が増えて、おしゃべりもできるし、おいしいねと言ってくれるのが何よりうれしいねえ。」

「この店のおかげで働く場所が増えたり、働くお母さんの姿を見て、大きくなったら自分もそばをつくってみたいって言っている子どもたちもいるのよ。あとつぎが増えて、笠がもつとにぎやかになつていってほしいわ。」

店で働く人たちは、笑顔でそう話してくれた。

「みんな、この笠が大好きなんです。」



店で働く笠の人たち

笠の人たちの言葉が強くと心に残る。  
「そばを始めて本当によかった。」

○ 笠の人たちが、「そばを始めて本当によかった。」と言ったのはどんな思いからだろうか。

○ 自分たちの町の特徴や伝統・文化、地域の発展に尽くした人などについて調べてみよう。

※ このお話は、平成四年から六年ごろのもので、写真は、日曜日のみ営業していたそのころのそば店の様子です。平成十五年にプレハブ建てから「荒神の里・笠そば処」として新築され、今では週末以外の日にも多くの人たちが訪れるようになっていきます。



県民だより奈良（平成20年8月号より）



お話のころのそば店の建物

奈良県教育委員会

<http://www.pref.nara.jp/gakko/>（学校教育課Webページ）

